

本研究では、木の仕事に関わる方々にアドバイスをいただいております。
そんな声のご紹介、今回は岡山県の堀さんです。

木材の現場から 2

堀一彦/有限会社ラック



一 木材の良さとは？また、それを伝えるとしたら？

日本人の技術を活かせる素材であること。漆を使ったり、器を作ったり、創意工夫することは人々の生活に豊かさを齎してくれる。また、以外に知られていないが、木材は火に非常に強い素材です。それに保存方法をうまくすれば1000年も使えます。日本人は、木の良さは分かっている、使い方を忘れたらある。ターゲットをもう少し絞って伝え方を考えてみたい。例えば、大人のための木工教室や、大学生にはキャンプでもしながら、技打ち実習や工場見学。中学生なら、化学や理科の先生と木を素材とした事業をしてはどうだろうか。

一 教育系大学が、木材を活かす研究に取り組むことに期待することは？

今後の環境問題などを考えると、この“木”という素材を活かすことで、どう生活を豊かに持続出来るか、教育に関わる所は多くありますね。世界でも上手に木を扱う民族なのだから、21世紀に向けて日本が国際社会に貢献出来る大きなチャンス子ども達どう伝えていくか、非常に責任は大きいと思います。

一 地元の課題などがあればお聞かせ下さい。

日本での木材の役割は、資源として農山村と都市がどの用に関係していくか、新しい時代に入ったと思えます。工業用原料としての木材は、廃棄のシステムまで考えていくと大変活用方法の多い原料です。今までは木材=建材でしたが、ホワイトウッドやレッドウッドのように工業用原料としながら、製造業の役割を考える必要があるでしょう。

一 有限会社 ラックとは…

木材を微細加工した工業用原料、特殊なチップやオガ粉、木材から成分を抽出した桧オイルの製造などを行なう。また他素材組み合わせた商品開発や、古民家再生や景観に関するプロジェクトにも取り組んでいる。

木活プロジェクト 研究月報

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~w-woods/contact> >>> w-woods@u-gakugei.ac.jp

2004 OCT > 05

岡山旅行記

written by 大隅理恵/院1

先月の9月17日、同研究室メンバーで岡山研修に行ってきました。製材する過程や現場をこの目で見て行こう！と強行した日帰りツアーにも関わらず、堀さん（上記記事参照）をはじめ多くの方々に、仕事場や街中を案内していただきました。



-落合町

まず、コンクリート製品メーカーのランデス株式会社(1)見学へ。側溝に落ちてしまった動物が自分ではい出せるように工夫された「ハイダセル」や、時間の経過によって植物の根が張り、固定されるというブロックなどを見せていただきました。自分が今まで抱えていたコンクリートや土木分野の製品に対するイメージとの違いに驚き、人間だけでなく自然や動物に配慮したコンクリート製品が造られているという事実を知ることができたこと「コンクリートが悪いのではない。使い方が悪いのだ。」というお言葉など、工業製品も自然に対してプラスとなることを行えるのだということに改めて気づかされました。

-勝山町

次に、町並み保存地区となっている勝山へ。地域の方達が町並みの保存に対して意欲的に、しかも今までとは違った新しい視点で…外見の保存だけでなく、内側を創造する文化や歴史、教育や芸術、ビジネスを新しく考え直すことで、今ある「町並み」に付加価値をつけていくというポジティブな考え方に魅力を感じつつ、造り酒屋(2)の蔵を改装したレストランでお昼をいただきました。

最後に、工場へ。製材所(3)・猫砂木材(4)の、すべてを使い切り、それをビジネスにつなげていくというアイデアに「なるほど！」の連発でした。銘建工業株式会社では、エネルギーを循環させる無駄をつくらない潔さを感じました。猛スピードで飛んでくる木材は初めて見ました。

